

私たちの活動や意見を
仲間で共有します
会費は県と日本平和委
員会の活動も支えます

土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会
事務局：土浦市神立町2664
ホームページ://heiwatutiura.
web.fc2.com/

核兵器禁止条約交渉実現へ ヒバクシャ国際署名を推進しよう！



ヒバクシャ
国際署名
HIBAKUSHA
APPEAL

国連総会第一委員会（軍縮）は10月27日、核兵器を法的に禁止する「核兵器禁止条約」について来年から交渉を開始するとの決議を、123カ国の賛成多数で採択しました。米ロ英仏などの核保有国や米国の「核の傘」の下にある日本など38カ国が反対し、中国など16カ国が棄権しました。このように、世界の趨勢は確実に「核兵器禁止」の方向に向かっていると言えます。

この動きを加速させ、

一日も早く地球上から核兵器を廃絶するために、日本原水協は、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」を全世界で展開することを呼び掛けています。日本平和委員会・茨城県平和委員会・土浦平和の会はこの呼びかけに応え、会員一人当たり、10筆以上の署名獲得を目指すこととしました。

この署名は今年8月から開始されたものですが、既に36カ国から56万4240筆（9月末）

が集約され、国連総会第一委員会に提出されました（第一次）。核兵器禁止問題を議論している国連総会に2020年まで毎年提出されます。日本での当面の集

約日は3月末日です。先月の当ニュース配布時に署名用紙（いわさきちひろさんのイラスト）を同封しました。みなさまのご協力をよろしくお願ひします。

秋の全県宣伝行動に参加



土浦平和の会は10月19日～21日の3日間、県平和委員会主催の秋の宣伝行動に参加しました。19日はかすみがうら市内を地元の佐藤

文雄会員と理事2名が、また20～21日は理事6名が参加、街頭での訴えとビラ配

布により、「戦争法廃止」「憲法改悪阻止」「沖縄に新基地はいらない」と訴えました。ビラは3日間で1500枚配布しました。

**戦争法廃止！海外派兵・参戦を
許さない11・20 県南集会
11月20日(日)13:30～集会
14:30～市内パレード
土浦亀城公園裁判所側広場**

10・21県南集会に参加



土浦平和の会は10月に7名が参加しました。

21日18時過ぎからつくば市竹園公園で行われた国際反戦デーの集会とパレード

意見広告の賛同を上げよう！

県平和委員会が毎年行っている新聞への意見広告を募集中です。

今年のテーマは、「戦争法廃止・日本を戦争のできる国にするな」「沖縄に基地はいらない」「東海第二原

発再稼働反対・廃炉に」12月8日前後の朝日新聞茨城県版1ページ全面広告となります。賛同金は個人一口1000円、団体一口3000円です。ご協力をお願いします。周りにも広めて下さい。

私は1939年（昭和14年）4月、東京市城東区亀戸9丁目で生まれた。この年はドイツのポーランド侵攻に対しイギリスとフランスが宣戦布告し、第2次世界大戦が勃発、その2年後の1941年（昭和16年）12月8日、日本は真珠湾を奇襲攻撃し、アメリカに対し戦線布告、第2次世界大戦を拡大した。まさに太平洋戦争の中で幼少期を過ごした。

4～5才頃、いつも近所の友達4、5人で近くの神社で遊んでいた。ある日突然、ゲートルをまいたおじさんが駆けてきて「空襲警報発令！空襲警報発令！」と大声で繰り返しながら走り抜けて行った。私は急いで家に帰り近くにある防空壕に駆け込んだ。夜も防空壕にいた。防空壕にトイレはない。

知らないおじさんに付き添われて外に出ると、空は真っ赤で、頭上を、轟音を発しながら超低空でグラマン戦闘機が飛んでいった。翼に描かれた星のマークは今も臉に残っている。

夜は電燈の笠に黒い布を巻きつけ光が外に漏れないようにしていた。寝るときには枕元には畳んだ着物を置いていつでも逃げ出せるようにさせられていた。

1944年都市部への空爆が激しくなり、子どもの田舎への疎開が始まった。駅で切符が中々買えず多くの人が並んでいた。夜、東武線新古河駅に着いた。暗く長い三国橋を顔に降りかかる雨を払いながら歩いた。やっと橋を渡り終えて、食事なしで泊まるだけの条件で宿が取れた。朝、宿屋の主人が私の年を聞いて、同じうさぎ年であることを知り、ねぎらってくれた。

疎開先は祖母の実家だった。納屋の壁に先端を斜めに切った竹竿が立てかけてあった。アメリカ軍が来た時に使う“竹やり”だと教えられた。毎日、縁

側で妹と一緒に南に数キロの飛行場から次々に北に向かう赤とんぼ（2枚羽根の赤色の練習機）を眺めていた。あるとき飛行場に向けてグラマン戦闘機が機銃を発射しながら急降下急上昇を繰り返すのが見えた。機銃から発射される弾丸が見えた。そのうち右手斜めの上空に胴体から外れた飛行機の羽根が右に左に揺れながら落ちて来た。消防の半纏を来た大人たちが走り回っていた。昼間、毎日ゴロンゴロンと特有の音を発するB29爆撃機を囲んで十数機のグラマン戦闘機が上空を行き来するようになった。ある日、家のラジオの前に人が集まって放送を聞いていた。天皇の玉音放送だったのだろうか。1945年8月14日、日本は無条件降伏した。

1946年（昭和21年）4月、国民学校1年生になった。学校で4つ折りの紙が配られ、家で、頁を合わせながら切った。国語の教科書だった。鉛筆は両端だけにしか芯が入っていなかった。靴は兵隊が使った肩からかける黄土色の雑納袋だった。お米など

ほとんどなくお昼はサツマイモ1本の時もあった。お祭りの饅頭のおんこはサツマイモだった。おかゆは麦だった。

5歳のウルトラマン大好きの子孫に聞かれた「じいちゃん、なぜ戦争はいけないの？」。戦争の悲惨さが正しく引き継がれてきたらどうか。非戦を誓った9条が骨抜きにされようとしている。戦争は足を忍ばせてやってくる。アメリカの新人統領になったトランプ氏は言っている。「北朝鮮が核兵器を持っているならば日本も核兵器を持つべきだ。」日本の防衛相は既に日本の核保有を「国家戦略として検討すべきだ」とまで言っている。このまま行けば、その先にあるのは人類の滅亡しかない。（小林良一）

リレー随想

思い出